

2014年4月実績概要（メモ）

（2014. 5. 22）

1. 生産動向

イ) エチレン 503,400トン

前月比 ▲ 1.5%（▲ 7,600トン）
前年同月比 ▲ 7.6%（▲ 41,700トン）

生産増減に係る諸要因	＜前月比＞	＜前年同月比＞
日数増減	▲ 3.2%	—
定修要因等	+ 0.3%	▲ 17.2%
能力増減	—	+ 0.1%
稼働率変動	+ 1.4%	+ 9.5%
生産増減率	▲ 1.5%	▲ 7.6%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月90.3%→当月91.3%←前年同月83.5%
定修プラント：前月3社3プラント → 当月3社3プラント ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の減少とともに定修が続いて実施されていることもあり、HD、EO、EG、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの8品目がマイナスとなった。LD、PP、SM、塩ビモノマー、AN、SBR、BRなどの9品目は稼働率要因や定修規模差からプラスとなった。

前年比では、総じて定修規模差等からHD、PS、SM、AN、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの10品目はマイナス。LD、PP、塩ビ樹脂、MMAモノマー、SBR、BRなどの7品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の減少があったものの稼働率要因と定修規模差からLD、PPはプラス、HD、PSは定修規模差等からマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因からLD、PPはプラス、HD、PSは定修規模差等からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、前月まで順調な出荷が続いてきたことやゴールデンウィーク入りに伴う営業日数の減少もあり、当月はLD、HD、PP、PSの4樹脂揃ってマイナスとなった。

前年比は、PEでは主用途のフィルム分野の出荷がやや減少したが、出荷量全体ではほぼ前年並みとなった。PPでは引き続き射出成形分野やフィルム分野での出荷増加しているほか、PSでは雑貨分野やFS分野の出荷が増加しプラスとなった。

ハ) 輸出

アジア域内の需要については改善の傾向がみられていない。当月は前月比でLD、PPは大幅なマイナスとなった。前年比ではLD、HD、PSでプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、HD、PSで減少、LD、PPは増加した。在庫率(季節調整済)ではLDは上昇し、HDは低下、PP、PSは横ばいとなった。在庫水準としては、LD、PPはやや高め、HD、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		3月末	4月末
LD	+11,500	3.1	3.5
HD	▲30,000	2.8	2.5
PP	+28,600	3.0	3.0
PS	▲4,700	1.1	1.1

以上